

平成27年4月2日 中部経済新聞掲載

24時間定期巡回スタート

オレンジ生活サポート 在宅高齢者に看護サービス



定時巡回・随時対応サービスは、介護保険の地域密着型サービスの一類型として2012年に創設された。

有料老人ホーム「オレンジ」を運営するオレンジ生活サポート（本社安城市北山崎町、稲垣則康社長、電話0566・71・3401）は4月から、24時間定期巡回・随時対応サービスを開始した。安城市内の事業者では初めて。在宅の高齢者の生活に合わせた訪問介護・看護に加え、緊急時の対応を行う。「一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯で困っている人は多く、在宅サービスの強化を図りたかった。地域包括ケアシステムに貢献していきたい」（稲垣社長）とし、初年度、30人へのサービス提供を目標に置く。（安城・片桐芳樹）

定期巡回では、ヘルパーが1日に複数回、原則10〜20分、利用者の自宅を巡回訪問し、安否確認や排せつ・移動・食事などの介助を提供。訪問看護は、検温、血圧測定、状態観察や服薬管理などを実施。随時対応では、利用者の宅に置かれた

有料老人ホーム「オレンジ」と定期巡回サービス



稲垣則康社長

コール端末により、24時間連絡がとれるようになっており、相談を受けたり、緊急時に駆けつけるなどのサービスを展開。利用者の生活リズムに合わせて、これらサービスを提供する。

利用料金は、1カ月ごとの定額払いで、訪問看護を利用する場合、要介護5で月2万9399円。

今回、「24時間看護・介護ステーション オレンジ」

として安城市から指定を受けた。新規事業スタートにあたり、介護職員8人、看護師2人の計10人のスタッフを新たに雇用。人材確保と教育の強化のため、14年からオレンジ内で、介護福祉士実務者研修と介護職員

初任者研修をスタートしている。同社は11年8月設立。12年4月に有料老人ホーム「オレンジ」をオープンした。14年春に増床し、現在、50室を備える。オレンジでは、市内で訪問診療を積極的に手掛ける医療機関と連携し、定期的な往診に加え、緊急時対応の態勢も整え、看護師または介護スタッフによる24時間サポートを実施している。